

2019年6月1日

消化器内科の外来診療あるいは入院診療を受けられた患者さんへ

「固形腫瘍に対するEUS-FNAにおける19g通常針と22g Franseen 針の後方視的比較検討」への協力をお願い

消化器内科では、過去に下記のような診療を受けた患者さんの試料・情報を用いた研究を行います。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

研究の対象：2009年1月～2018年3月に当科において、超音波内視鏡下吸引針生検を受けられた方

研究期間：倫理審査委員会承認日～2020年12月31日

研究目的・方法：超音波内視鏡下吸引針生検（EUS-FNA）は消化管周囲の固形腫瘍より低侵襲で安全・確実に病理検体を採取する方法として広く行われています。組織検体を採取することは、組織構築の評価や免疫染色が追加可能であることから診断に重要とされており、さらに、最近ではPrecision Medicineの広がりからその重要性は増しています。以前は組織検体を採取するために、大口径針（19g通常針）を使用していましたが、大口径になることにより操作性が悪いことが問題点でありました。近年、22g Franseen 針が登場し、細径の針ながら高い組織検体採取率が報告されています。これらの針の比較検討を行うことにより、今後の穿刺針の選択の指標を作ることを目的としています。

研究に用いる試料・情報の種類：

性別、年齢

腫瘍存在部位、大きさ、最終診断

穿刺部位、穿刺針、穿刺回数

細胞診診断、組織診診断、組織検体量（再解析による）

合併症の有無

研究への参加辞退をご希望の場合

本研究に関して新たに患者さんに行っていただくことはありませんし、費用もかかりません。本研究に関する質問等がありましたら以下の連絡先まで問い合わせください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて了承いただけない場合には研究対象としませんので、以下の連絡先まで申し出ください。なお、本研究は、岐阜大学大学院医学系研究科医学研究等倫理審査委員会の承認を得ております。また、この研究への参加をお断りになった場合にも、将来にわたって当科における診療・治療において不利益を被ることはありませんので、ご安心ください。

研究から生じる知的財産権の帰属と利益相反

研究者及び岐阜大学に帰属し、研究対象者には生じません。研究の結果の解釈および結果

の解釈に影響を及ぼすような「起こりえる利益相反」は存在しません。

連絡先

岐阜大学医学部附属病院 消化器内科

電話番号 058 - 230 - 6308

氏名：岩下拓司

研究責任者

岐阜大学医学部附属病院 消化器内科

氏名：岩下拓司